

『第3版 図説やさしい建築法規』第1版第1刷 正誤表
 本書において下記のとおり誤りがございました。
 深くお詫び申し上げますとともに、ここに訂正させていただきます。

2025年2月 (株) 学芸出版社

<p>p.120 右側上</p>	<p>・耐火構造 (p.111) ・耐火性能検証法による構造 (p.118) など</p> <p>A 【法27条1項1号】 いずれかに該当する建築物</p> <table border="1"> <tr> <td>① 認定・仕様規定による建築物</td> <td>② 耐火建築物 (p.118)</td> </tr> <tr> <td>次ページ②の 避難時倒壊 防止構造 【合110条1号】</td> <td>耐火構造等 【合110条2号】 + p.109の 防火設備 (両面遮炎)</td> </tr> <tr> <td>上記のいずれか + 次ページ③の 防火設備 (片面遮炎)</td> <td>法2条9号の2 ロにより、延焼 のおそれのある 部分に防火設備</td> </tr> </table> <p>次ページ③の 防火設備 (片面遮炎) + p.123の 火災時倒壊 防止構造 【合110条2号】</p>	① 認定・仕様規定による建築物	② 耐火建築物 (p.118)	次ページ②の 避難時倒壊 防止構造 【合110条1号】	耐火構造等 【合110条2号】 + p.109の 防火設備 (両面遮炎)	上記のいずれか + 次ページ③の 防火設備 (片面遮炎)	法2条9号の2 ロにより、延焼 のおそれのある 部分に防火設備	<p>・耐火構造 (p.111) ・耐火性能検証法による構造 (p.118) など</p> <p>A 【法27条1項1号】 いずれかに該当する建築物</p> <table border="1"> <tr> <td>① 認定・仕様規定による建築物</td> <td>② 耐火建築物 (p.118)</td> </tr> <tr> <td>次ページ②の 避難時倒壊 防止構造 【合110条1号】</td> <td>耐火構造等 【合110条2号】 + p.109の 防火設備 (両面遮炎)</td> </tr> <tr> <td>次ページ③の 防火設備 (片面遮炎)</td> <td>法2条9号の2 ロにより、延焼 のおそれのある 部分に防火設備</td> </tr> </table> <p>次ページ③の 防火設備 (片面遮炎) + p.123の 火災時倒壊 防止構造 【合110条2号】</p> <p>火災時倒壊防止構造は規模により防火設備 (両面遮断) が異なる。(p.124)</p>	① 認定・仕様規定による建築物	② 耐火建築物 (p.118)	次ページ②の 避難時倒壊 防止構造 【合110条1号】	耐火構造等 【合110条2号】 + p.109の 防火設備 (両面遮炎)	次ページ③の 防火設備 (片面遮炎)	法2条9号の2 ロにより、延焼 のおそれのある 部分に防火設備
① 認定・仕様規定による建築物	② 耐火建築物 (p.118)													
次ページ②の 避難時倒壊 防止構造 【合110条1号】	耐火構造等 【合110条2号】 + p.109の 防火設備 (両面遮炎)													
上記のいずれか + 次ページ③の 防火設備 (片面遮炎)	法2条9号の2 ロにより、延焼 のおそれのある 部分に防火設備													
① 認定・仕様規定による建築物	② 耐火建築物 (p.118)													
次ページ②の 避難時倒壊 防止構造 【合110条1号】	耐火構造等 【合110条2号】 + p.109の 防火設備 (両面遮炎)													
次ページ③の 防火設備 (片面遮炎)	法2条9号の2 ロにより、延焼 のおそれのある 部分に防火設備													
<p>p.173 右上</p>	<p>Lw : 床面積あたりの必要な壁量 (cm/m²) Ai : 層せん断力分布係数 Co : 標準せん断力係数 0.2 とする Σw : 当該階が地震時に負担する固定荷重と積載荷重の和 (kN) Afi : 当該階の床面積 (m²)</p>	<p>Lw : 床面積あたりの必要な壁量 (cm/m²) Ai : 層せん断力分布係数 Co : 標準せん断力係数 0.2 とする Σwi : 当該階が地震時に負担する固定荷重と積載荷重の和 (kN) Afi : 当該階の床面積 (m²)</p>												
<p>p.176 右下 枠内</p>	<p>どちらかの壁量充足率が1未満の場合</p> <table border="1"> <tr> <td>壁率比</td> </tr> <tr> <td>壁量充足率の小さい方 / 壁量充足率の大きい方</td> </tr> </table> <p>判定 ※壁率比 0.5 以上の場合は OK とすることができる。</p>	壁率比	壁量充足率の小さい方 / 壁量充足率の大きい方	<p>どちらかの壁量充足率が1を超えない場合</p> <table border="1"> <tr> <td>壁率比</td> </tr> <tr> <td>壁量充足率の小さい方 / 壁量充足率の大きい方</td> </tr> </table> <p>判定 ※壁率比 0.5 以上の場合は OK とすることができる。</p>	壁率比	壁量充足率の小さい方 / 壁量充足率の大きい方								
壁率比														
壁量充足率の小さい方 / 壁量充足率の大きい方														
壁率比														
壁量充足率の小さい方 / 壁量充足率の大きい方														
<p>p.220 左上 タイトル</p>	<p>円滑化基と円滑化誘導基準の概要 ※一部抜粋</p>	<p>円滑化基準と円滑化誘導基準の概要 ※一部抜粋</p>												
<p>p.233 中央上 表内</p>	<p>『建築基準法』の流れ</p> <p>1920『市街地建築物法』制定</p> <p>建築基準法の前身となる法律</p>	<p>『建築基準法』の流れ</p> <p>1920『市街地建築物法』制定</p> <p>建築基準法の前身となる法律</p>												